

# 小学校養護教諭の困難感からみた不登校支援の探究

学籍番号 199226  
氏名 三宅なつみ  
主指導教員 平井 美幸

## 第1章 緒言

近年、子ども一人ひとりが抱える援助ニーズは多様化・複雑化しており、学校はそれらの課題に向き合い、課題解決に向けた支援が求められる。養護教諭は、児童生徒の身体的不調を背景に、諸問題をいち早く気付く立場であることから健康面の指導だけでなく、生徒指導面でも大きな役割を担っている。我が国の不登校の変遷と現状から、不登校を理解し、小学校養護教諭が行う不登校支援の定義について検討した。

本実践課題研究は、不登校児童に対する組織的な支援体制を構築し、不登校対策委員会に位置付けたチーム援助の展開への示唆を得るため、小学校養護教諭の不登校支援の実践的探究、小学校養護教諭の困難感の解明、小学校養護教諭が行う効果的な不登校支援の啓発について包括的に明らかにすることを目的に推進した。

## 第2章 養護教諭による不登校支援の省察—児童19名を対象とした回顧的調査—

個々の子どもの援助ニーズに応じた小学校養護教諭の支援を検討するため、小学校養護教諭が実際に行った不登校支援を明らかにすることを目的とした回顧的調査を実施した。児童19名を対象とし、情報媒体をもとに小学校養護教諭自身の記憶における個別支援を調査した。データ分析はKJ法に依拠して実施した。分析の結果、養護教諭の不登校支援は養護教諭の専門性を発揮しながら、子どもに関わる支援者と学校内外で連携・協働しながら支援し、担任や保護者も支援する等、多様な支援を行っていることの示唆を得た。

## 第3章 組織的な不登校支援に関する養護教諭の実践

養護教諭がどのようにチーム援助を実践し、チーム学校として不登校支援を展開していくのか、不登校児童に対する組織的な支援の推進プロセスを検討することを目的とし、不登校児童に対し組織的な支援をすること、また学校経営の観点に立って保健室経営計画を作成、実施することは組織的な不登校支援の推進プロセスに有効であり、養護教諭が不登校支援を保健室経営に位置付けて実践することは、組織的な不登校支援を推進させる効果がみられると示唆された。また、登校しづりや教室に適応できない児童の早期発見につながり、不登校の悪化予防となると示唆を得た。

## 第4章 小学校養護教諭を対象とした不登校支援の困難感に関する質的研究

小学校養護教諭の前向きな養護実践につながるよう、小学校養護教諭の不登校支援における

困難さを明らかにすることを目的とし、A市の小学校養護教諭9名にインタビュー調査を行った。分析方法は質的記述的分析を適用した。分析結果から、①小学校養護教諭は、自らが保健室で行う個別支援そのものに困難感があり、それは時に教員や保護者というチーム援助のメンバーからの理解が関係している可能性があるということ、②不登校支援においては担任に配慮や支援をしながら養護教諭としてコーディネートし、さらに組織の中で協働的援助につなげる困難感があること、③前述した2つを左右する養護教諭の力量を実感することに困難感があること、の3つの示唆を得た。

## 第5章 リーフレット「不登校児童理解と支援～小学校養護教諭が行う不登校支援～」の作成と活用

小学校養護教諭が行う不登校支援に関する効果的な啓発に向けて、リーフレットを作成、活用方法を検討することを目的とし、小学校養護教諭が行う不登校支援に関する効果的な啓発に向けてリーフレットを作成し、活用方法を検討することは、俯瞰して不登校支援をみることができ、より前向きな不登校支援につながることを期待できると示唆を得た。

## 第6章 成果と課題

小学校養護教諭がチーム援助や不登校支援を推進させる方策を実践し、不登校支援を組織的に行うことがより不登校児童への充実した支援へとつながることが理解された。これらの知見により、不登校児童に対する組織的な支援体制を構築し、不登校対策委員会に位置付けたチーム援助の展開ができるのではないだろうか。

本実践課題研究はA小学校における一個人としての実践であり、小学校養護教諭の不登校支援として一般化を図ることができない。先行研究からも小学校養護教諭が行う不登校支援については詳細に解明されておらず、また、不登校支援は中長期的な支援に至るケースが多く、すぐに効果が明らかになるものではない。今後の研究において効果的な実践を検証していくことが課題である。

各学校で少数である小学校養護教諭の不登校支援がより多くの関係者に理解され、連携・協働して不登校の子どもに温かくチームで支援していく実践は、A市全体の組織的な不登校対策に有効であるといえる。

## 第7章 結論

小学校養護教諭の困難感からみた不登校支援を包括的に明らかにしたことにより、不登校児童に対する組織的な支援体制を構築し、不登校対策委員会に位置付けたチーム援助の展開への有用な実践的知見が得られた。この知見を活用し、不登校児童の支援の充実を図るために、養護教諭が学校の中で十分機能できるよう、管理職や教職員等が組織の中での養護教諭の役割を正しく理解し、また、養護教諭自身の自らの困難感を理解しながら、保健室の機能を生かし専門性を発揮していくことが期待される。